

お父さんの背中

先月のお母さんの話題に変わり、今回はお父さんを取り上げたいと思います。

以前、子育てに関する講演会で、子どもたちの問題には母親だけでなく父親の存在と家族関係が大きく関係していることを聴きました。母親の顔が良い意味でも悪い意味でも、子どもに大きな影響を与えることを示しましたが、当然父親の顔も同じです。ところが、父親は子どもの顔を見ている時間的余裕がありません。東京都の子育てに関するアンケートでは、「父親の子育て参加が十分か」の問いでは、(67%)が不十分と回答しています。理由としては「仕事が忙しく子育てに時間がとれない」が(70%)で、以下「休暇を取ることがめらわれる職場の雰囲気がある」(66%)、「子育てのための休暇制度等が充実していない」(44%)、「子育ては母親の役割だと思っている」(37%)となっています。時間的余裕のためには社会や企業が理解を示し、父親が育児に参加できるような体制をとるこ

とが必要なこととは言ってもありません。しかし、現実には父親の育児参加は難しく、父親の顔は益々遠くなっています。

「子どもは父親の背中を見て育つ」という言葉があります。この言葉の裏には、家庭は母親に任せて男というものは家庭を犠牲にしても会社のために働くのが美学という意識があったかもしれません。この美学は時代遅れの感があり、結局単に子どもに背を向ける結果だったのかもしれない。しかし、状況が変わった現在でも、父親の背中では重要な役割を持っていません。アンケートからもわかるように、顔を見せる時間がない場合は背中を見せるしかありません。しかし、父親の背中の意味が少しずつ変わってきています。最近、家庭の中における父親の存在が小さくなったと言われています。本来の父親というのは、家庭の中ではだんと構えて、外では家庭を支えるためにしっかりと働くというのが理想的で、これが大きな意味で父親の

背中なのです。

見せる背中が小さければ、役割が果たせません。背中を大きく見せるためには、どうすればいいのでしょうか。一番大事なことは、父親としての自覚を持ち、自分が家庭を支えている意識を持つことなのです。どんな仕事であっても、労働が社会に貢献しているという自信を持つことです。そうすれば、大きな背中をもつ父親を中心に、安定した家庭が築かれていくに違いありません。安定した家庭には笑いがあふれ、母親にも余裕が出てきます。そして余裕が生まれれば、子どもにもいい影響を与えるのは当然です。しかし、喧嘩ばかり、ろくに口もきかない、時間があればゲームばかり、揚げ句の果てに暴力を振るうでは、家庭の意味がなくなってしまう。機能不全家族という言葉を知っていますか？

それぞれの役割を果たしていない家族のことを示しています。機能不全家族では、子どもたちに様々な影響が出るかとされています。そして、今話題になっているような子どもたちの精神的な問題の根が、機能不全家族にあるとの指摘もあります。

ナビゲーター
小児科専門医

川村 和久

仙台市在住



医療法人社団かわむらこどもクリニック医院長。日本の小児科サイトを運営する、言わずと知れた小児科専門医。「お母さん達の心配・不安の解消」を理念に、日々の診療にあたっている。宮城県小児科医会理事。2001年には医師として大変名誉のある日本小児科学会バネリストとして選ばれる。
AERA(アエラ)臨時増刊号 日本初! かかりつけ医を探すガイド「日本の家庭医 08」(7月5日号)の町のお医者さん1435人の中で紹介される。
<http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

*平成19年度第4回インターネット部政モニターアンケート結果

仕事を放棄してまでの育児参加は、正しい姿ではありません。家庭を支え、仕事を通して社会貢献しているという、大きな背中を見せつけて下さい。